

こんにちは!
春は別れと出会いの大切な季節です。そして成長を感じるこの出来る季節でもありますね。みなさん、お子様、そしてご自身を振り返っていかがでしたでしょうか?「なにかやり残した事がある!」ということであれば、「思い切って一歩踏み出してみたいかがでしょうか?」きつと素敵に方々にめぐり逢えますよ(^_^) 今回の紙面で紹介する本のライターである大元よしきさんのお言葉でした。では、今年度最終号をどうぞ!(O)

武蔵野東学園 連合後援会だより



一緒に見上げた空

「挑戦と創造」著者 大元よしき

ラグビーは両チーム合わせ30人が、試合を通して肉弾相打つスキンシップを繰り返す。そこには日常とは隔絶された中で感じる、ある種の温もりや人の息遣いがある。また培われる連帯感、さらにはお互いを認め合う尊敬にも似た心が生まれる。磨き合う中で醸成されるものはきりが無い。それがどこのチームにも限らず、ラグビーは横(同期)、縦(上下関係)の絆が強いと言われる所以である。

そのうえでラグビー部が目指しているものは、共に密度の濃い時間を過ごすことによって、人との触れ合いを避けてきた元不登校児たちが仲間存在を知り、さらに自閉症児への

理解と愛情を深めることにある。一方、自閉症児は苦手と言われる集団生活の中で社会性を身につけることにある。

自分だけに捉われた「個」の殻を破り、仲間「個」を理解し尊重すること。そして「個」から「共に」という姿勢を学ぶ実践の場としてラグビー部は存在している。

部のモットーは「One for all Only」
武蔵野東ラグビー部とは、顧問団と生徒たちが共に作り上げる作品と言えよう。丹念に時間をかけて、思いや願いを込めて作り上げる「永遠に未完」の作品なのである。
「一緒に見上げた空」より 大元よしき



武蔵野東ラグビー部の軌跡 One for all Only

武蔵野東の子供たちは不器用だから、一人ひとりがみんなのことを考えるようにしよう。チームのことを考えることにしよう。

著者 大元よしき著
版型 四六判
定価 1470円(税込)
発売日 2009年1月30日
ISBN 978-4-594-05853-1
扶桑社刊
武蔵野東学園「北原記念館」の「学園事務局」・「チャレンジショップ」、そして武蔵野市西久保にある「武蔵野東技能高等専修学校 受付」でもお買い求めいただけるようになっています。

「苦勞は買ってでもする」昔はよくそういわれたものです。ところが、時代の流れによる世の中の変化が、「苦勞は、親がお金を払ってでも排除する」に変わってきたと感ずることがあります。

その影響からか、受動的な人間が増加し、成人でも、注意や失敗により身動きがとれなくなつて「ニート・フリーター」として親や国をも困らせる結果になっています。ニートの彼らは「ここは(ここのやり方は)私には合わない。」が口癖だそう。また、先日新聞に、「ニートの60%は学生時代に部活動を経験なし」と調査結果が出ていました。そこで考えました。様々な人々に揉まれることや、ある程度の苦勞が非常

に大切だと言うことを。それには、部活動が鍵になると思つたのです。ところが、昨今の部活動事情に目を向けると、トラブルや担当教員の負担が多く、非常に難しい現実があるのですが、それでも机上では学べない、部活動によって得られる大切なものがあると思うのです。活動成績ではなく、どんな苦勞をして、どんな仲間が作れるかに重要性を感じているのです。この本には、そんな苦勞の連続と結果が描かれています。2年間の密着取材によって、裏表なく全てを見てもらった大元氏だからこそ書けた本なのです。是非ご一読頂ければと思います。

武蔵野東ラグビー部 監督 天宮一大



我が家の子育てのモットーは、健康な心!強い精神!

武蔵野東学園と出会い、たくさんのお話を吸収する小学生時代、何事にも一生懸命に取り組む先生方と接することができたことは、私どもにとって、かけがえのない財産です。心の教育に共感し後援会活動をする中で、様々な経験を通して、子どもはもちろん、私も成長をさせていただきました。今後も、親子共々に学んだ東つ子精神を基盤とし、感謝の心を忘れず、頑張れる子ども、負けない子どもに育てていきます。間もなく卒業の時。家族そろって巣立つ気分です。ありがとうございました。

小学校後援会副会長 元田ルミ

卒業にあたって...

卒業までもう数日となりました。息子が高等専修学校からお世話になり、私は後援会五役を昨年よりやらせて頂きました。良く分からない事ばかりで、色々皆様にはご迷惑をお掛けした事と思います。しかし、役員をやらせて頂く事でむらさき会の役員さんともお話しをする機会が出来て、武蔵野東での混合教育をより身近に感じる事が出来ました。息子が三年間学んだ事、お互いを尊重し合い、認め合う高等専修学校の混合教育は卒業して社会に出ても忘れる事は決して無いと思います。息子も私も、ご指導下さいました先生方や皆様に感謝いたしますありがとうございました。高等専修学校後援会副会長 石井 みどり

幼稚園後援会活動を通して

「この歳になって、こんな気持ちを味わえて...」後援会活動の中でも思い出深い園まつりの直後、一緒に準備してきた方から掛けていただいた言葉に泣きながら固く握手したことは忘れられません。園舎に響く年長児の歌声に卒園が近いことを悟る梅見月、「第二の青春、到来」と張り切る仲間と今は卒園に向けての準備を進めています。どちらもお母様、お父様方の手作りの温かさで笑顔で溢れ、後援会が保護者の接点となることを実感いたします。同じ思いを持つ仲間や家族の支えのもと、充実感や達成感に満ちた三年間。一人の保護者として、多くの幸せな経験をさせていただいたことに感謝しています。

幼稚園後援会副会長 町田 三菜

卒業にあたって

充実した東中での三年間で、心身共に成長した娘も、まもなく卒業を迎えます。子どもから大人へと成長していく多感なこの時期に、東学園で学ぶことが出来、本当に良かったと感謝しております。温かく見守り、的確なアドバイスを示して下さる先生方、一緒に笑い、共に成長してきた友達と過ごした三年間は、娘にとってかけがえのないものであったと思います。後援会活動を通じて、私自身も多くのことを学び、良い思い出を作らせていただきました。お世話になりました先生方、保護者の皆様に心より御礼申し上げます。

中学校後援会副会長 明石 靖子

感謝

泣きわめきながら参加した幼稚園の入園式。先生方がやさしい笑顔で迎えて下さってから、あっという間の13年。我が家の末っ子は大学院生の姉や大学生の兄より一足先に社会人になる。学園の先生方の指導の賜物で、少しずつ、だけど確実に成長を続け、只々お荷物であった子が、家族の支えになり、誇りにもなった。自閉症児は一人ずつ得手不得手が違う。「みんな違って、みんな良い。」そんな簡単な、でも、一番大切な事を子供に教わった。ここまで温かく指導していただいた東の先生方、お体に気をつけてこれからもがんばってください。むらさき会代表 木村啓子

●BS日本テレビ 3月8日(日)「アスリートLiveTV」20時~にて武蔵野東ラグビー部のドキュメントが放送されます。フジテレビでも今春放送予定のドキュメントがあります。お楽しみに!

●編集後記
本年度最終号はいかがでしたでしょうか?中面に高等専修学校ラグビー部をテーマにした「一緒に見上げた空」のご紹介をさせていただきました。皆さん是非読んでみてくださいね。そして「東学園とはこういう学校です。高専だけでなく各園校にも熱い先生が沢山いるんですよ。」と言ってお知り合いに紹介できる本だと思います。最後に、今年一年だより発行にあたり快く出稿いただきました皆様、ありがとうございました。来年度も宜しくお願いいたします (O)

●編集委員会(編集スタッフ)
高等専修 永井 登美子 鈴木 葉子
中学校 上野 清子 阿比留 留美子
小学校 寺島 直美 武田 陽子
幼稚園 千保 久美子 阿久津 ゆかり
高等専修 齋藤 良
中学校 桑原 厚
小学校 家住 隆士 北川 久一郎 大槻 敬



むらさき会新年会

今年は例年より1週間早く、1月10日に行なわれた恒例のむらさき会新年会ですが、今年も多数の参加があり、幼稚園から高等専修学校の4つの園舎及びOBのむらさき会員の保護者と先生方で総勢385名の集いとなりました。今年も小学校の体育館とサブアリーナを使い、今回はイスとテーブルで最初は学年ごとに別れ、いつも子ども達がお世話になっている先生方とドリンク片手に和気あいあいと、じっくり楽しく本音トークも織り交ぜながらの2時間半でした。日々仕事に追われてなかなか子ども達の学校生活まで把握できないお父様達は、わが子の日常を垣間見ることもできたのではないのでしょうか？来年も楽しみにしててください。(高専N むらさき会役員)



むらさきOB会クリスマス会

むらさきOB会(会員数370名)は、後援会の皆様とともに学園の様々な行事に参加させていただき、先生方のお力を借りながら活動を続けています。そのような中、皆様方のお目に触れることのない行事に、高等専修学校の講堂で毎年行っている「むらさきOB会クリスマス会」があります。昨年は、12月6日(土)の午後5時から開催しました。40名を超える先生方をご出席くださり、卒業生も過去最高の100名が参加し、保護者を加え総勢200名で2時間の会を楽しみました。卒業生達は、久しぶりに会う先生方と一緒に会食をし、新任の先生にはパフォーマンスを披露していただき、会で準備したプレゼントを受け取り、一足早いクリスマス気分を味わい散会しました。

むらさきOB会 16期 野本千賀子

後援会活動を振り返って

高等専修学校会長 佐野恭一

佐野恭一

早いもので、二人の子ども達は同時に東学園を卒業で、自動的に私も現役としての後援会活動を卒業させていただくことになりました。むらさき会の副会長時代を含め7年、高専後援会で3年です。もっと長く担当された諸先輩には敵いませんが、よく務まったものです。節目、節目のご挨拶、ポストン東スクールへの20周年行事への参加などは普通ではなかなか経験できません。その時々で生徒や先生方と関わり合う。何だかもう一度学生をさせていただいたような気分で若返りました。言い換えれば、後援会は学園の応援団(ファンクラブ)です。花形プレイヤーの生徒達も名監督の校長やコーチ役の先生方もトレーナーも揃っている。私達は声を嗚らして応援する。五役に選ばれた方もクラスの役員に選ばれた方も本当に皆様お忙しい中、ご自分の時間を割いて活動していただいています。皆様の献身的な活動に心から感謝します。また私自身は会長としては無力で皆様大変ご迷惑をおかけしました。現在の東学園に関わる保護者全員に東学園を応援したい、発展してほしいという思いが強いので、私自身は無力でもお許しただけなのではないかと感じております。言い訳でスミマセン!

東学園は現在44歳、磨きがかかって益々魅力的な存在になることでしょう。これからは現役応援団でなくてもファンクラブ永久会員として応援し続けたいと思います。



ポストン東スクールの皆様をお迎えして

発表会前日に、ポストン東スクールのお客様方をお招きし、今年度も北原記念館チャレンジショップにて連合後援会の代表者が出席してウェルカムパーティーを行いました。ガーランド理事長をはじめ8名のお客様の中には、ポストン東スクールの新校長ドノバン先生もいらっしやり、楽しい一時を共有できました。その翌日の発表会は、府中の森ドリームホールの改修工事のため8年ぶりに懐かしい普門館で実施され、大きな舞台、大きな緞帳、たくさんの客席がある会場で児童生徒たちの素晴らしい演技演奏に感動いたしました。同じ歩みをするポストンの皆様と今年も発表会を共に見ることがうれしく思いました。そしてこれからも日本とポストンの子ども達の成長を願いながら、互いの強い協力関係を築いていきたいと心新たにいたしました。(I.M)



発表会

幼稚園

今年の発表会は我が家にとって、とても心に残るものとなりました。姉は年長さんで最後の思い出、妹は年少さんで初めての大きな舞台。かわいい衣装に、お化粧、スポットライトを浴びる本格的な舞台。大人なら緊張で頭が真っ白になりそうなのに我が子は堂々と、元気良く踊っていました。お腹の底から大きな声を出して歌ったり、まっすぐな心で演奏している姿に、胸を打たれました。圧巻は、年長さんの合奏。心に響くシンバル、ティンパニー、息の合ったハーモニカ、心を込めた歌声に、「こんなにも成長したのか!」と、感動で胸がいっぱいになりました。大きな達成感と、自信を子ども達の心に育んでくださった先生方に、感謝しております。(年少・年長 M)



中三の娘にとって、東学園生活最後の発表会となった。思い起こせば娘が小学生の頃も普門館でやらせて頂いた事があり、又最後の発表会をこの場でしめくるといっても何か感慨深いものがある。何年も発表会を見ていると内容そのものがレベルアップしている様に思え、驚く事にこんなに広い舞台をおかりしているのに子ども達の動きは決して小さく見えない。むしろ堂々として大きく立派に見えた。本物の経験を子ども達にさせたいという創立者北原キヨ先生の思いが確実に継承されている事を感じ、机上だけでない学園の教育のあり方に改めてありがたい思いがした。幼稚園から中学校までの12年間数々の貴重な体験、大切な事を教育頂いた事、発表会を通じ先生方、学園に関わる方々に感謝を申し上げたい。

(中3w)

小・中学校



武蔵野東ラグビー部の軌跡

一緒に

見上げた空

One for all Only

共に泣き、共に喜び合える仲間の存在を感じた時に、この言葉の意味を知らさう。
武蔵野東ラグビー部は元不登校児と自閉症児、8人の顧問団、そして保護者が、
高藤を経て紡ぎ出す終わりのない人間ドラマである。

大元よしき 著

一緒に
見上げた空
「自閉症児×元不登校児」
武蔵野東ラグビー部の軌跡



著者 大元よしき著
版型 四六判
定価 1470円(税込)
発売日 2009年1月30日
発行・発売 扶桑社
ISBN 978-4-594-05853-1

好評発売中



武蔵野東学園「北原記念館」の「学園事務局」・「チャレンジショップ」、そして「武蔵野東技能高等専修学校 受付」でもお買い求めいただけるようになっています。